

Q&A

腹痛，下痢，腹水をともなう 抗生剤抵抗性胃腸症の1例

【問 題】

症例：57歳，男性。

主訴：腹痛，下痢。

既往歴：虫垂炎手術（12歳），高尿酸血症，アレルギー疾患の既往なし。

現病歴：201X年8月下旬から，腹痛を主訴に前医有床診療所を受診。軽度の炎症反応を認め，腹部CTにより十二指腸および大腸粘膜の浮腫状変化を認め，感染性腸炎が疑われた。絶食・補液投与・抗生剤CEZ 2g/日投与による加療をするも症状の改善なく，炎症反応が持続するとともに腹部CTにより腹水の出現も認めるなど臨床所見の増

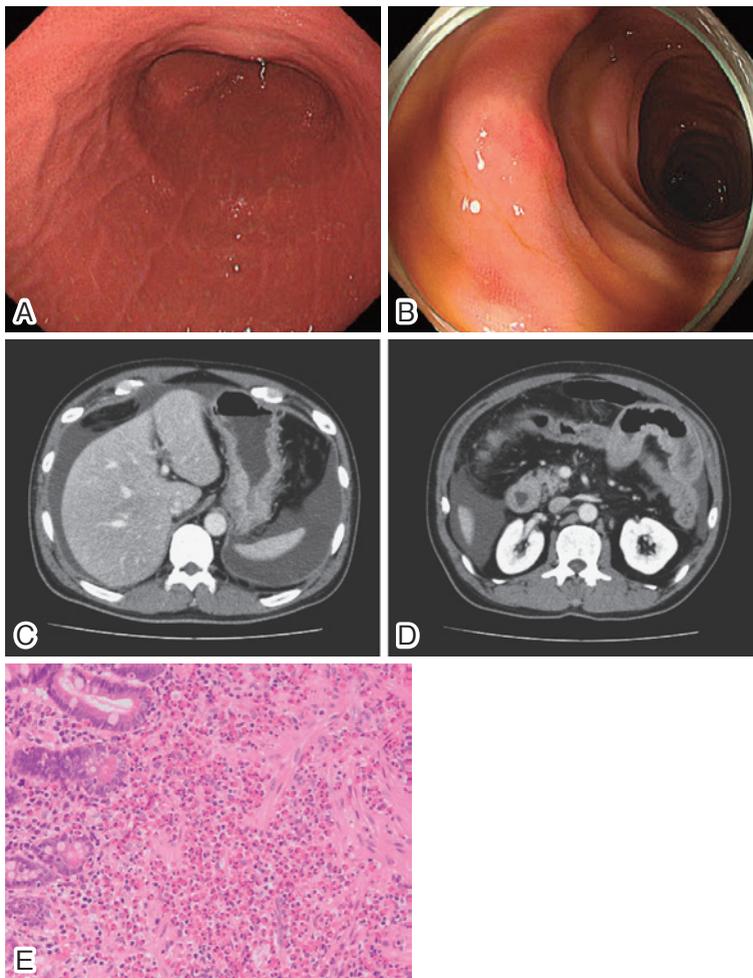


Figure 1. A. 上部消化管内視鏡検査所見. B. 下部消化管内視鏡検査所見. C. 腹部CT検査所見. D. 腹部CT検査所見. E. 内視鏡下生検（十二指腸：HE染色，×640倍）.

2020年4月

悪を認め、当科紹介入院となった。

現症：腹部診察上腹部は全体に膨隆しており、限局した圧痛を認める部位はなく、反跳痛、筋性防御は明らかではなかった。四肢末梢に浮腫、紫斑などを疑う所見なし。

血液検査所見：WBC 15870/ μ l (Neu 59.6%, Lymp 11.8%, Mono 2.6%, Eosino 25.7%, Baso 0.3%), Hb 15.5g/dl, Plt 38.3×10^4 / μ l, AST 18IU/l, ALT 16IU/l, LDH 215IU/l, γ GTP 31IU/l, Alp 219IU/l, T-Bil 0.34mg/dl, CK 251IU/l, Amy

40IU/l, Na 140mEq/l, K 4.3mEq/l, Cl 104mEq/l, Ca 8.5mEq/l, BUN 6.0mg/dl, Cre 1.03mg/dl, PT 99.8%, APTT 26.9秒, CRP 1.56mg/dl, PCT 0.08ng/ml, 非特異的IgE抗体 1938IU/l, 抗核抗体 20倍, ASO 80IU/l, 第13因子 39.1%.

画像所見を示す (Figure 1).

臨床経過, 画像所見, 病理所見から考えられる診断は?